

2023年度卒業生動向調査

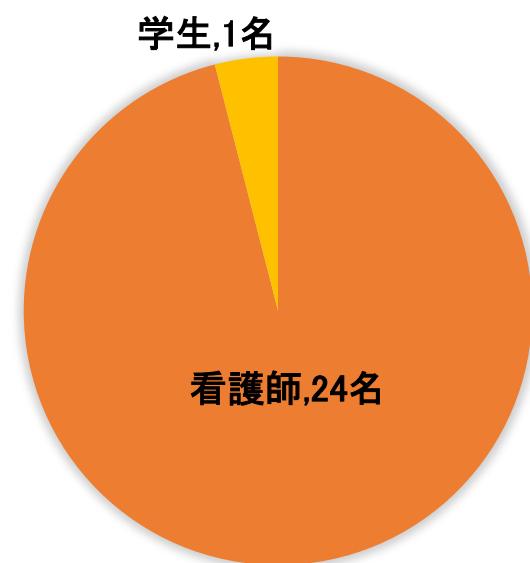
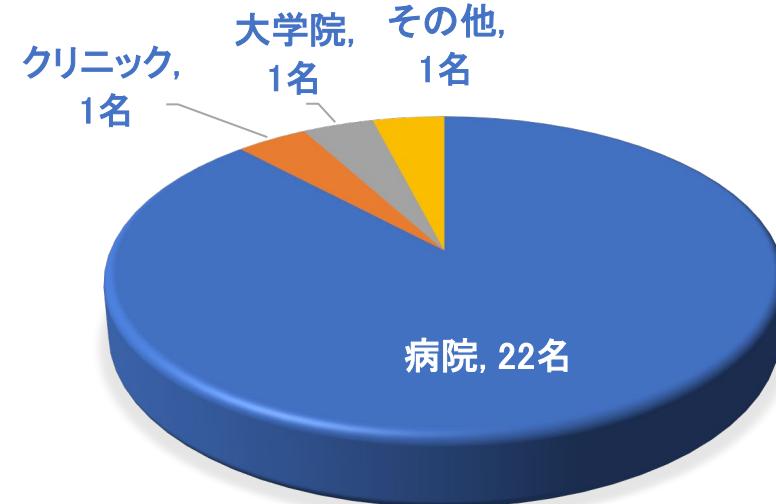
調査目的：卒業生を対象に大学における学生生活に対する満足度や在学中に身につけた能力及び現在の職業生活などについての実態把握と分析を行い、より良い大学作りに向けた検討材料とする。

対象者：2022年度卒（2023年3月卒業）73名

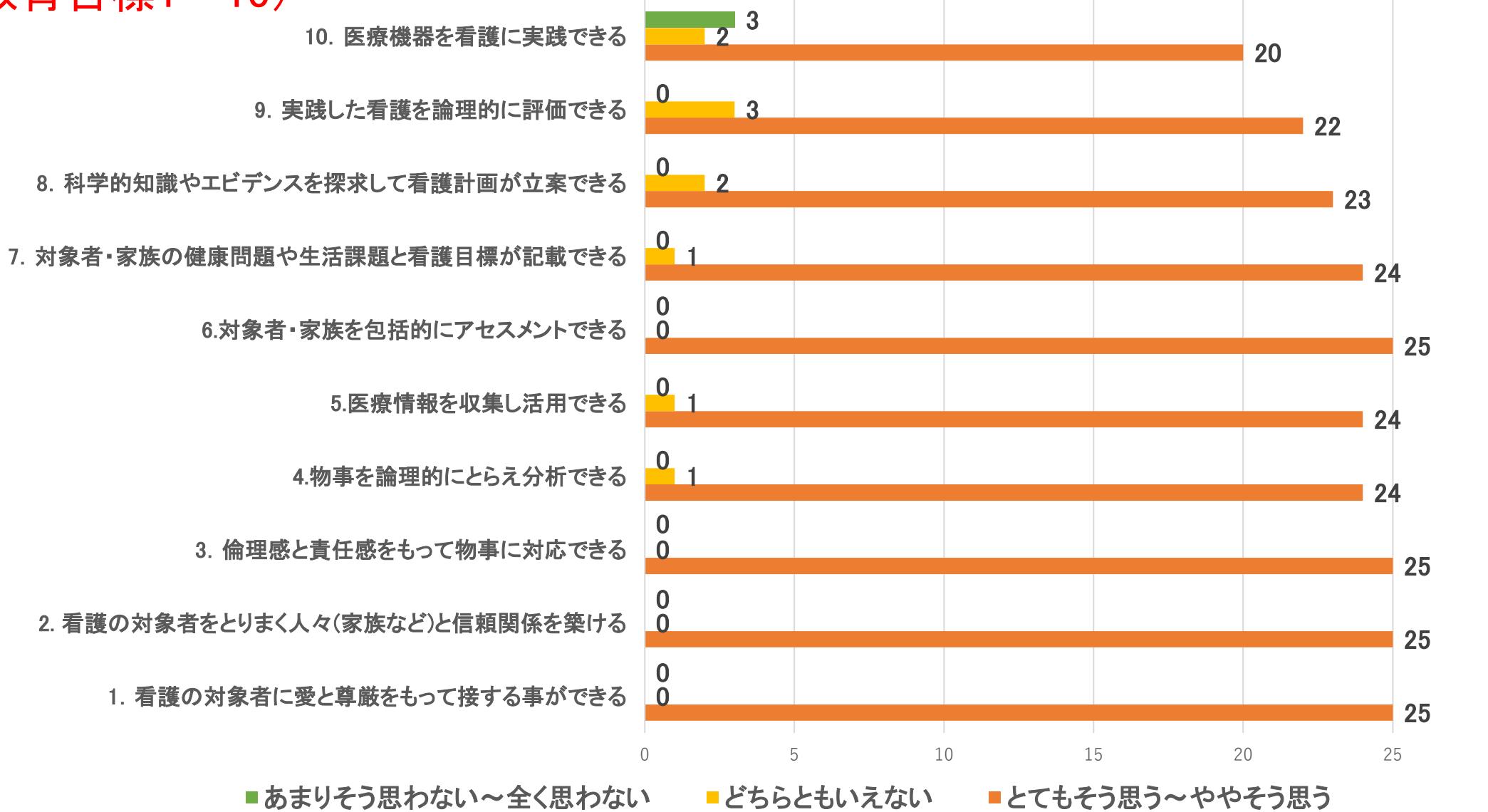
調査方法：質問紙調査
紙媒体及びインターネットによる回答

回答者数：25名（34%）

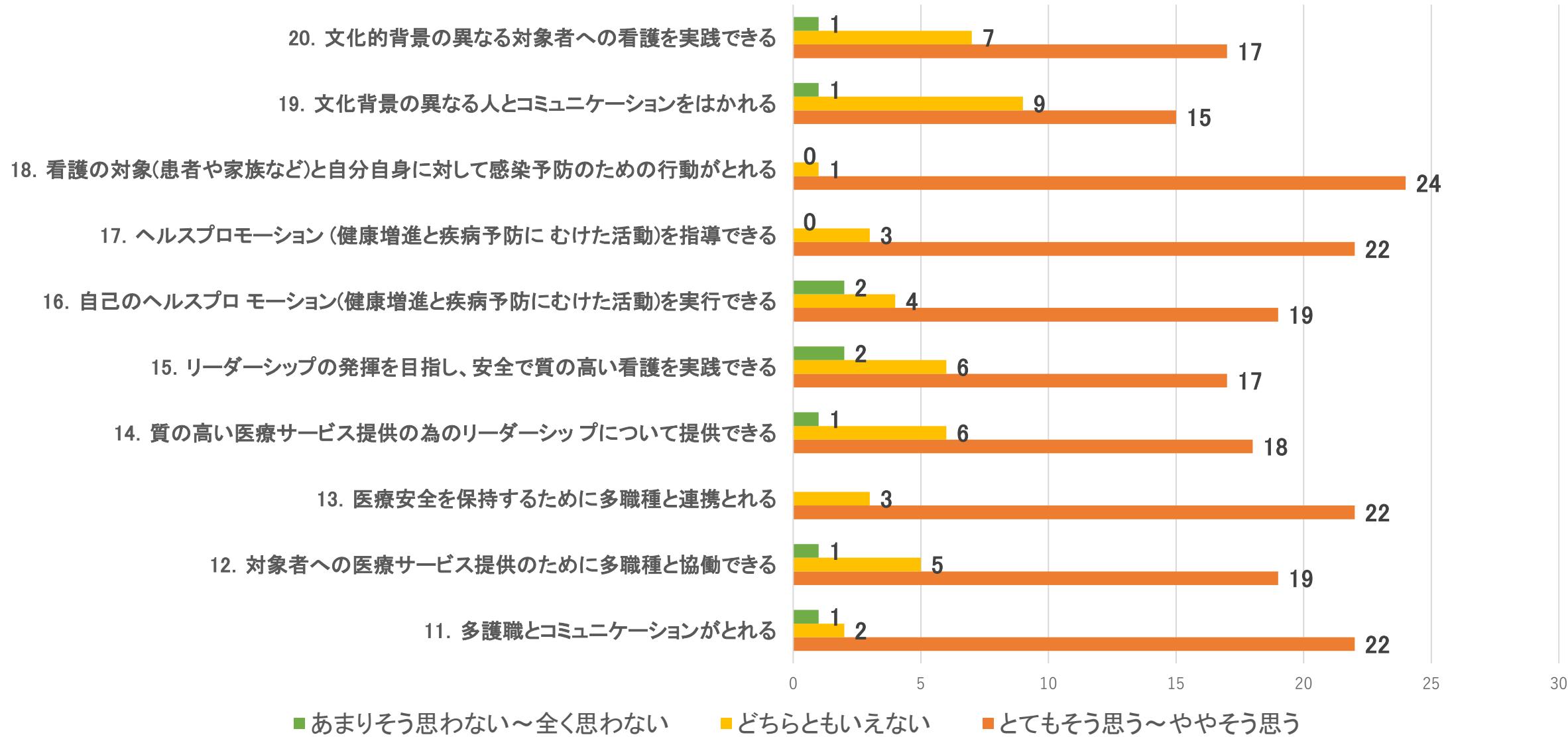
対象者の属性



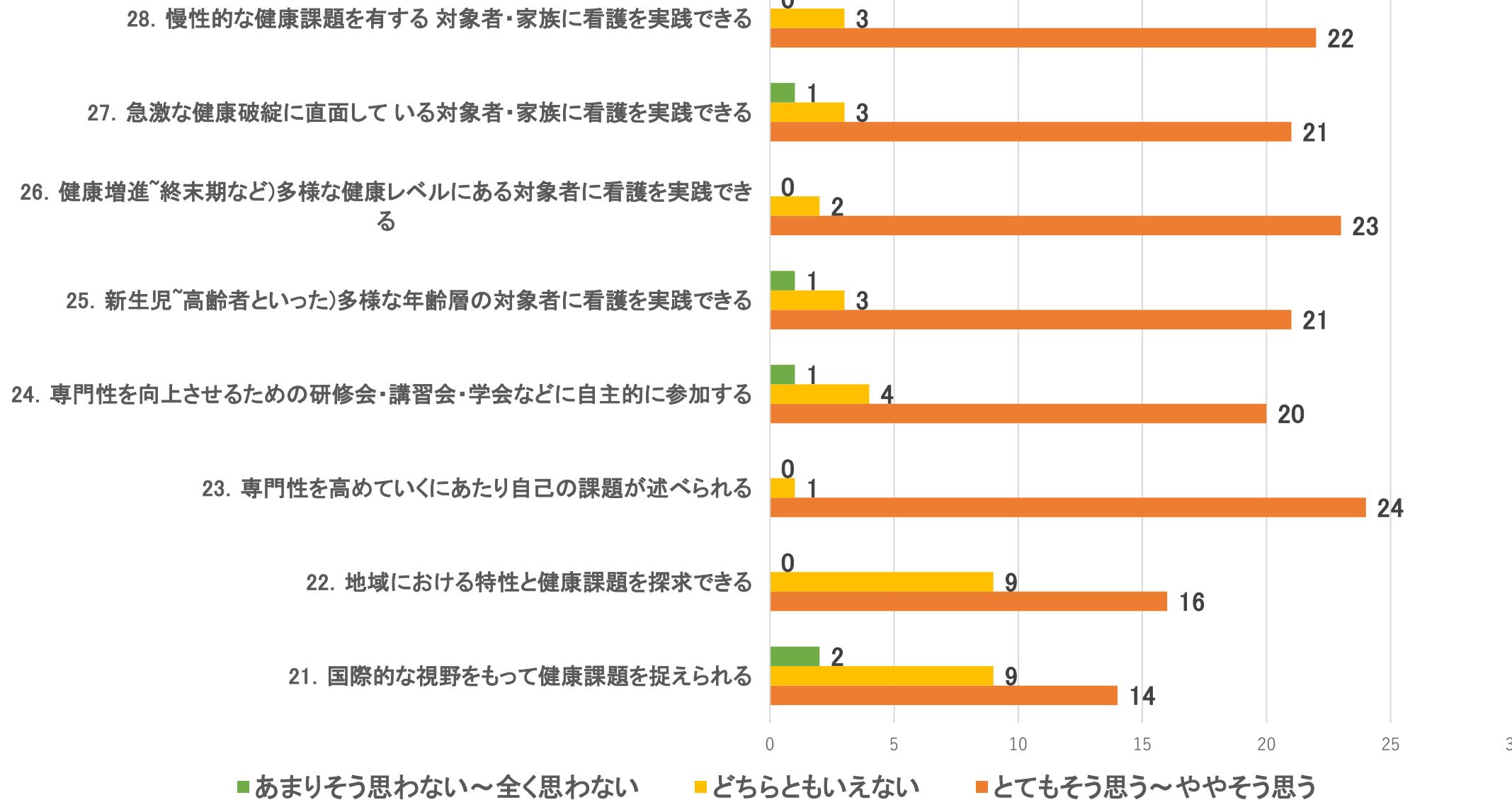
スキル(実践能力)の必要度:発揮できているか (教育目標1~10)



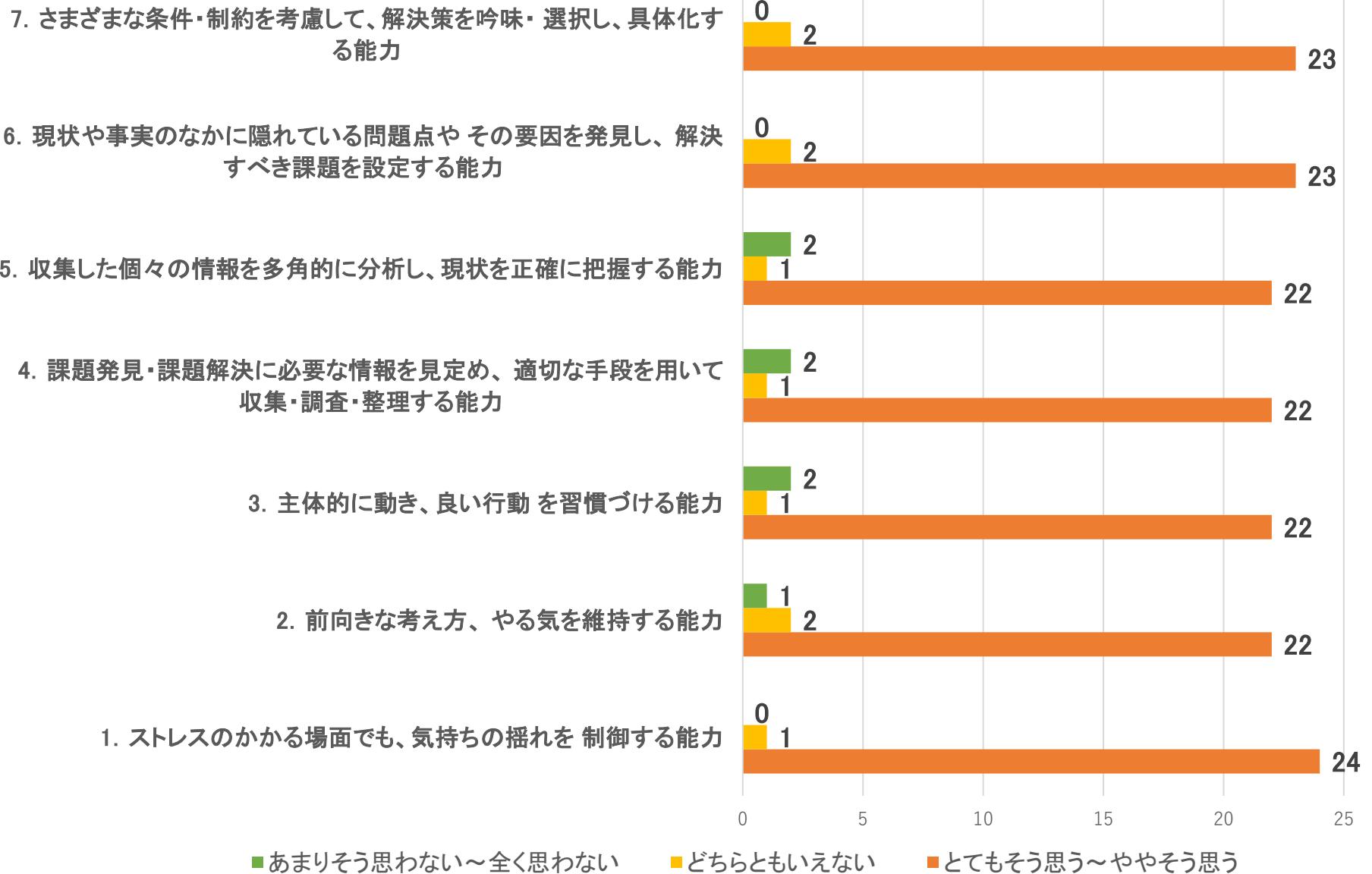
スキル(実践能力)の必要度:発揮できているか (教育目標11~20)



スキル(実践能力)の必要度:発揮できているか (教育目標21～28)

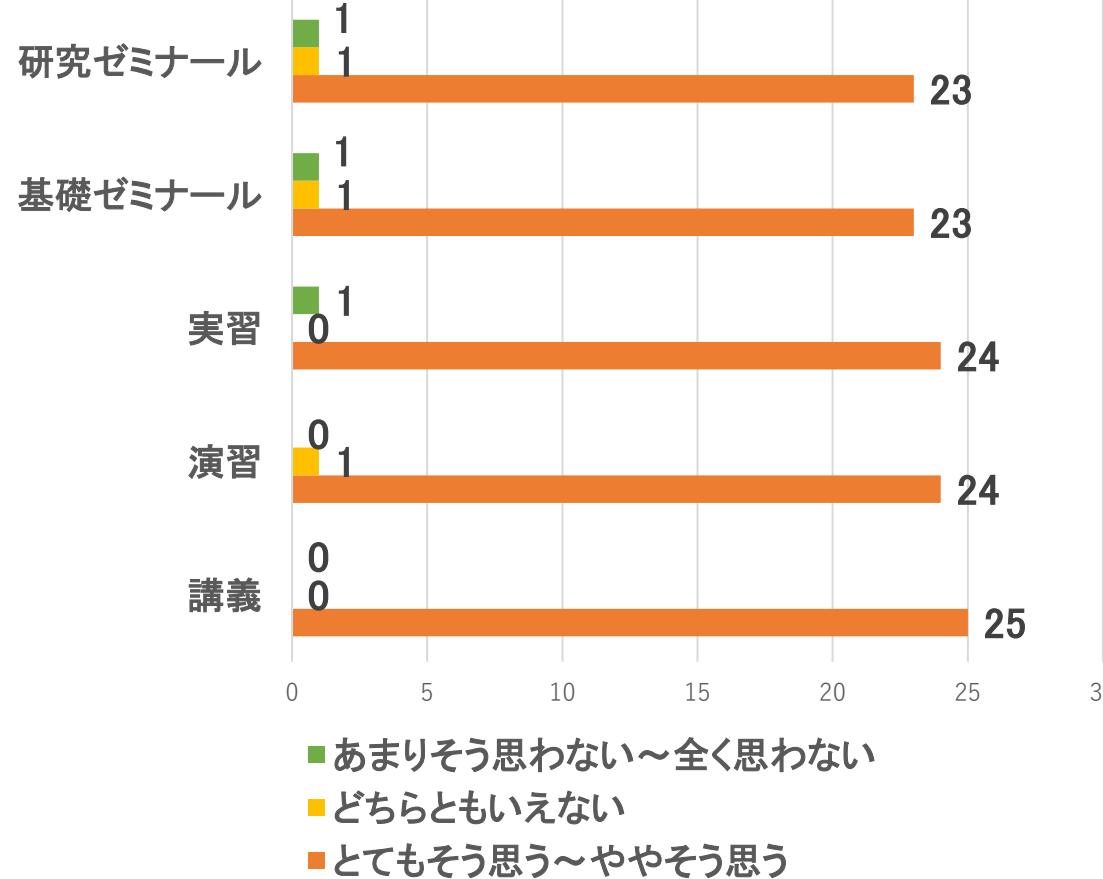


スキル(能力)の必要度:発揮できているか

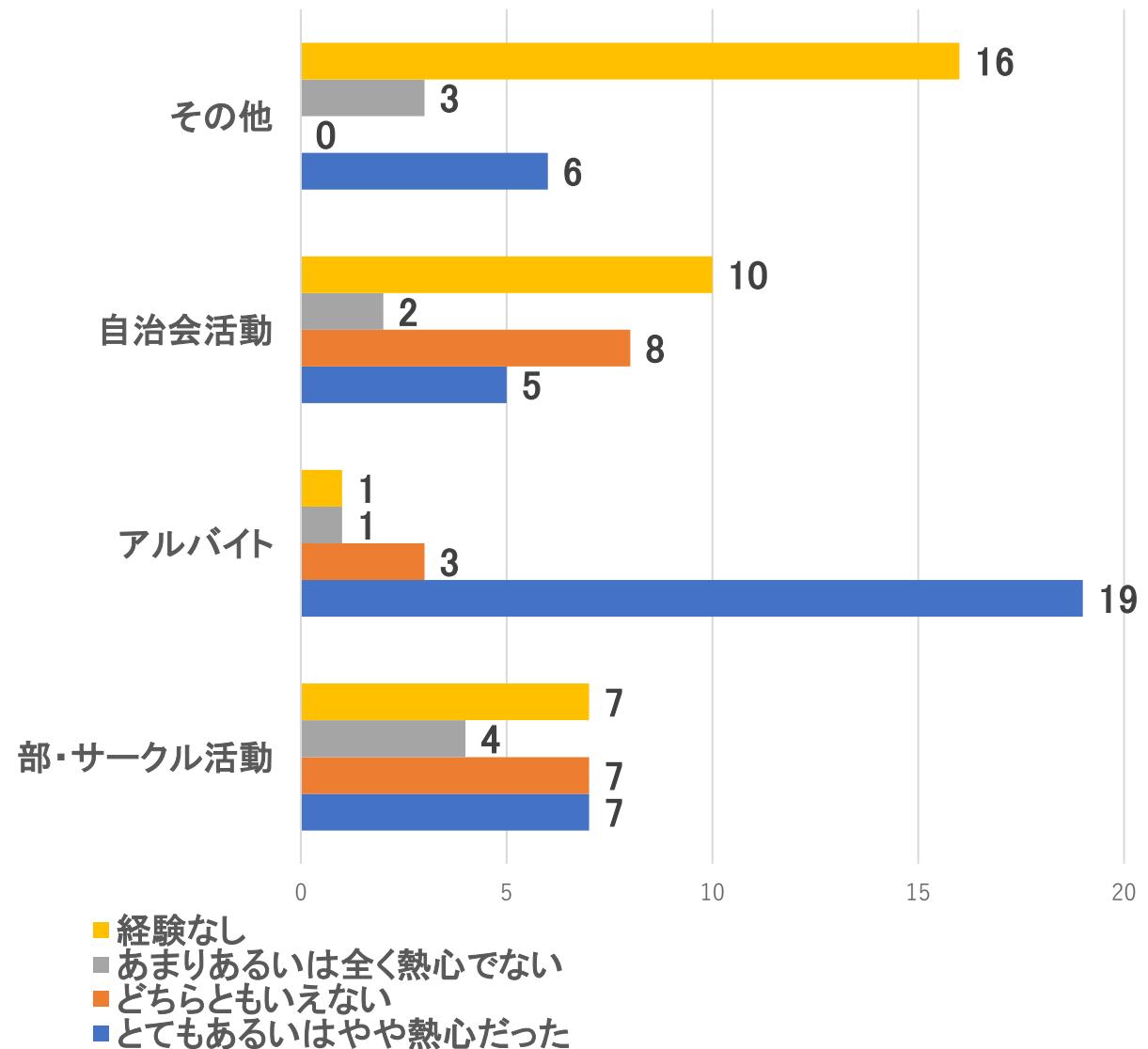


学生時代の取り組み

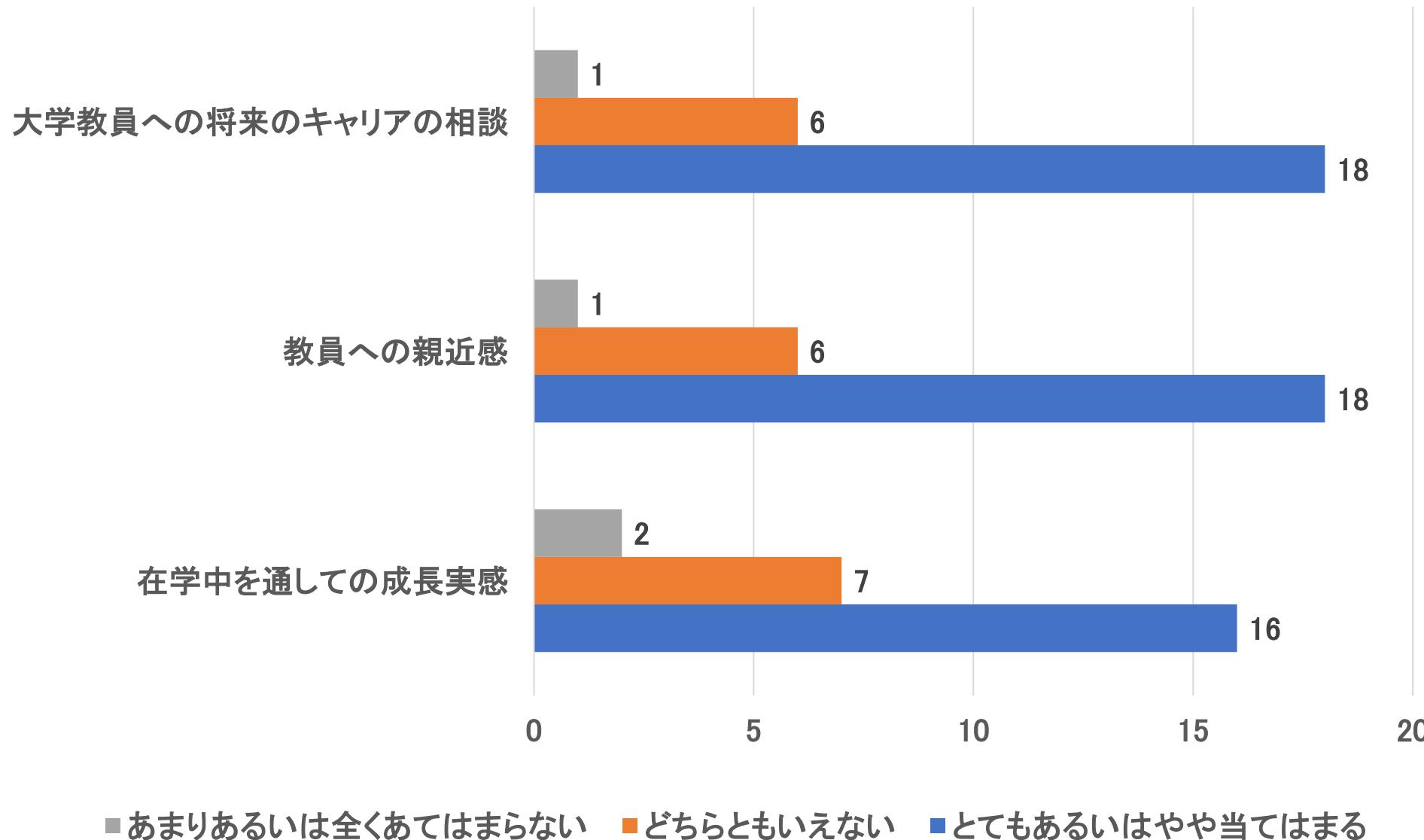
講義・演習・実習



部・サークル、アルバイト等



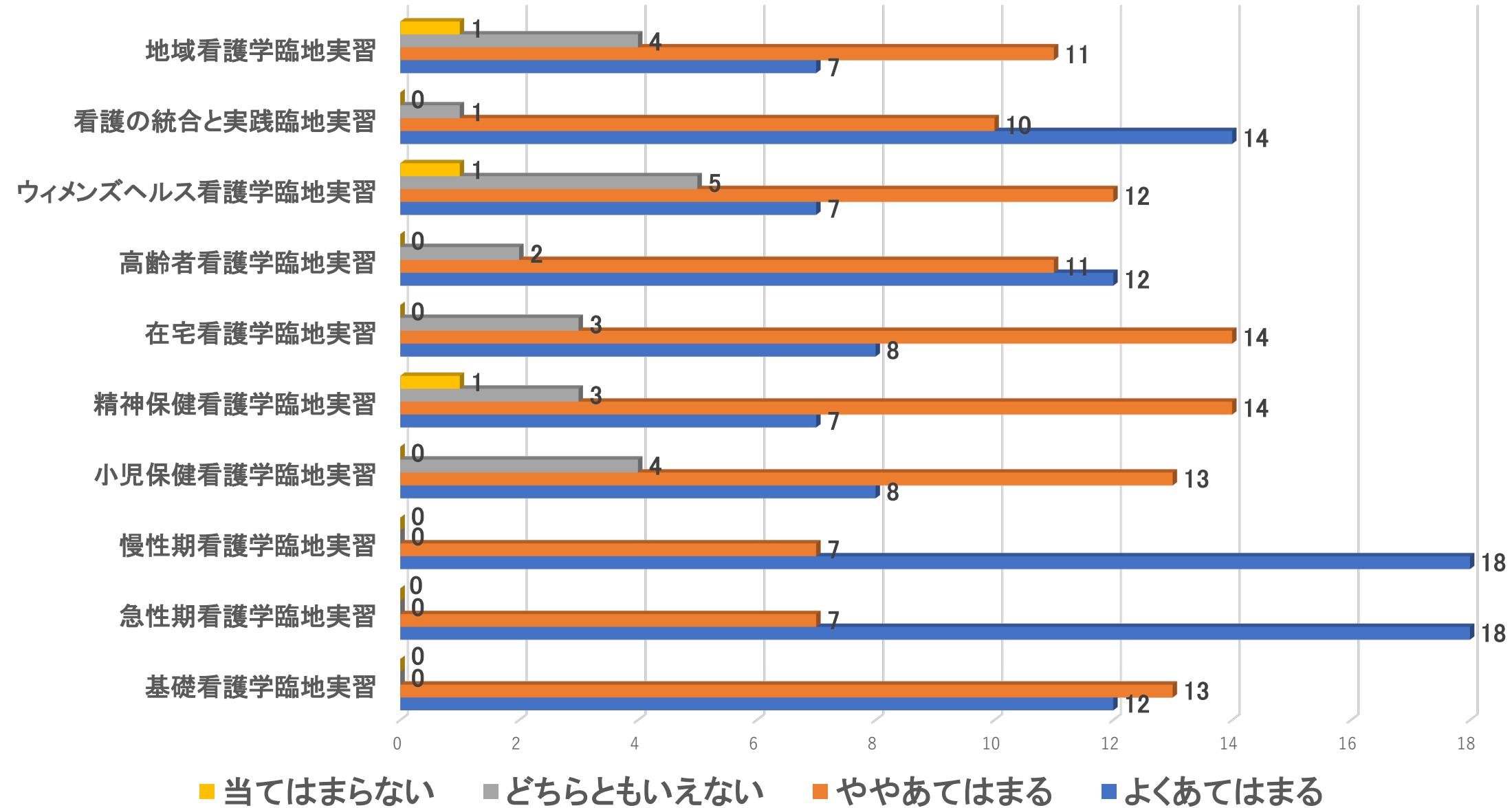
大学時代の成長実感など



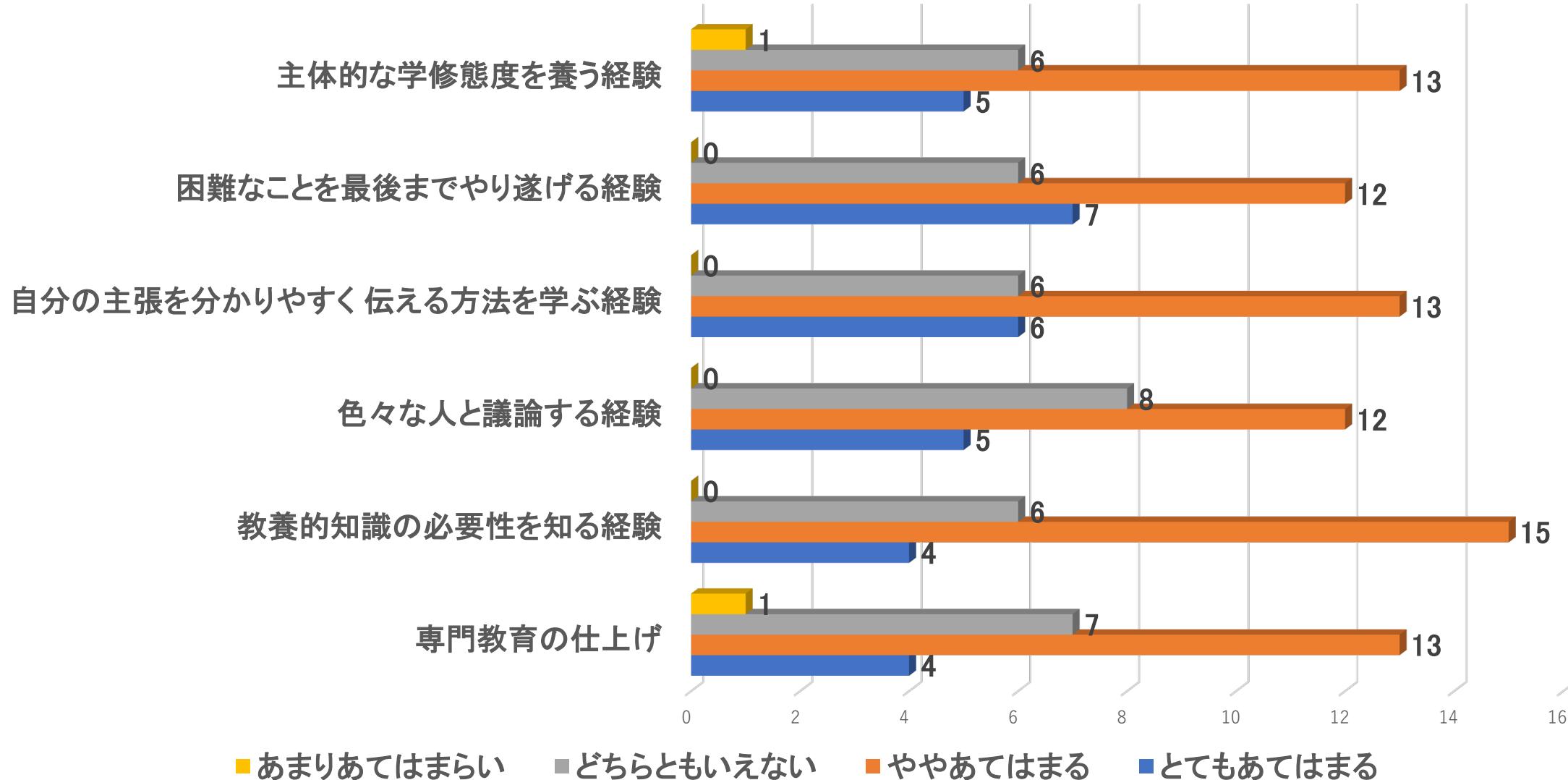
【本学の印象(イメージ)】
(複数回答)

内容	名
伝統・実績がある	1
教育内容が充実している	3
教育内容のレベルが高い	0
研究内容に力を入れている	1
社会で役立つ力が身につく	7
グローバル教育が充実している	1
学修設備や環境が充実している	7
地域連携に力を入れている	7
産官学連携に力を入れている	0
社会貢献活動に力を入れている	0
スポーツに力を入れている	0
大学全体の教育方針が明確である	4
各学部の教育方針が明確である	2
学生に活気がある	3
就職支援が充実している	10
特になし	4

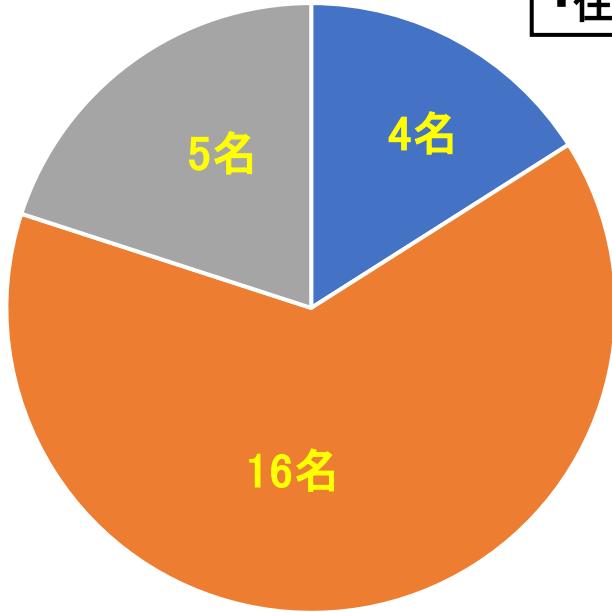
看護学臨地実習の意味



研究ゼミナールの意義



大学への満足度(1)



- とても満足している
- やや満足している
- どちらともいえない

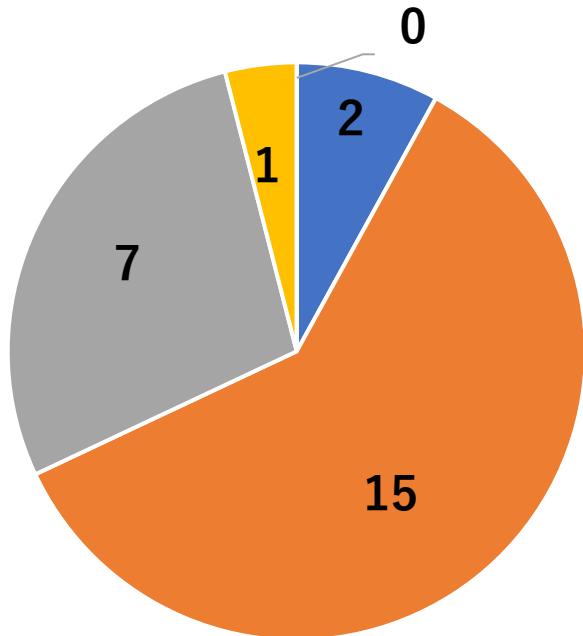
満足していない理由

- ・クラブ活動がほぼない
- ・サークル活動があまり充実していない点
- ・コンビニが敷地内に欲しかった
- ・学生住宅の家賃が高い割に部屋が狭い
- ・学費や設備費を払っているのに学業に必要なものが不十分だったと思う
- ・住みづらい

満足している理由

- ・楽しく学べた
- ・先生に相談しやすい環境であった
- ・看護技術の演習から実習まで支援を受けながら実践することができた
- ・臨地実習や演習で病院スタッフと関わる場面があり、学生時代から現地の言葉を聞くことができた
- ・地方から出てきて不安なことが多くあったが先生や事務の方々が心身に寄り添ってくれた。
- ・1年から4年生まで実習があったことで臨床で学べる機会を多くもらえたこと
- ・教員のサポートが充実しているように感じた
- ・ある程度自由さがあって、主体的に学習に取り組める環境であったため
- ・学習面でのサポートをよく行ってくれた
- ・学習支援が充実していて(特に国試)、先輩との交流も盛ん。
- ・看護の教養はもちろん、英語や音楽などの学習も行うことができた

大学の推奨度



- とても勧めたい
- どちらともいえない
- やや勧めたい
- あまり勧めたくない

推奨したくない理由

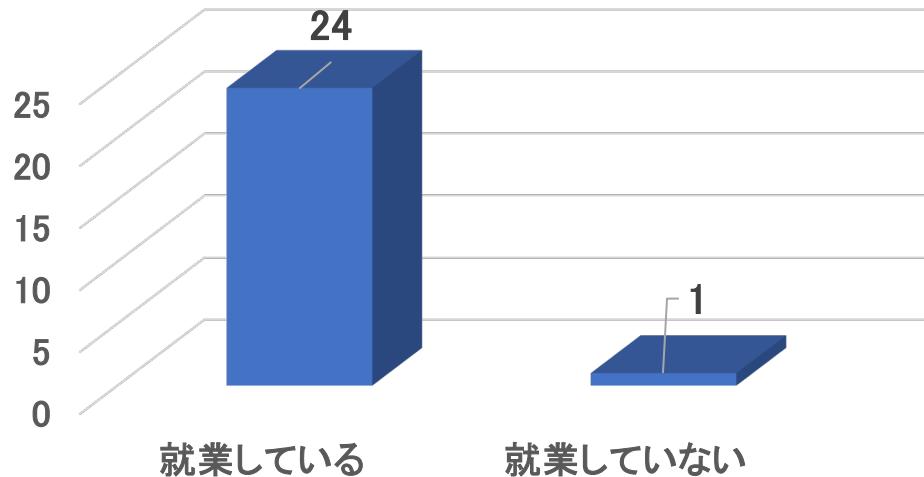
- ・地域の環境があまり良くないと思うため
- ・プライベートが充実しにくい
- ・学生に必要な設備などが不十分だった

推奨したい理由

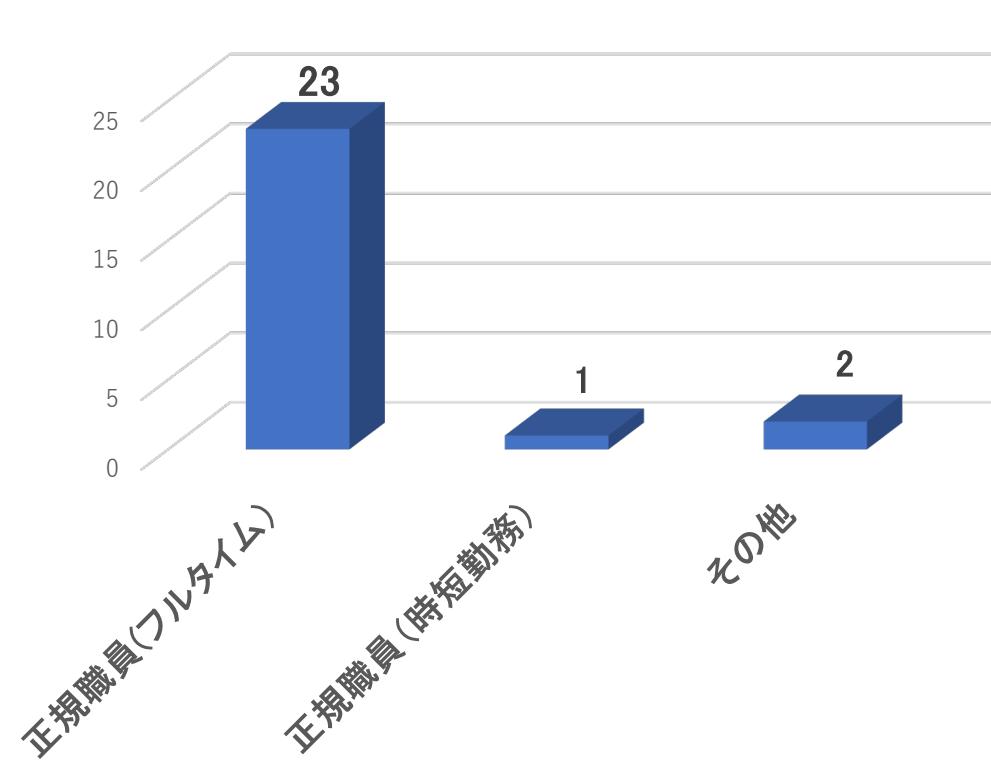
- ・A総合病院と連携しているから
- ・時間に余裕がある
- ・多くのことを学べること
- ・先生に相談しやすい環境であったため
- ・充実した支援を受けながら学習や実習に取り組めるところ。
- ・自然に囲まれた環境でのびのびと学生生活が送れるところ
- ・今後、亀田総合病院で働きたいと思う人には勧めたい
- ・連携した大きな病院があるため、臨時実習が充実している
- ・その病院には同じ大学の先輩が多くおり学習状況をなんとなく知っているためか実習中は寄り添ってくれた
- ・就職先の安定
- ・実習先が充実しているところ実習がしやすい実習環境が整っている
- ・自分から教員へ相談しやすい環境であるから
- ・亀田総合病院に就職しやすい点
- ・連携している大きな病院も近くにあり海外との連携もあるため

卒業後の就業状況

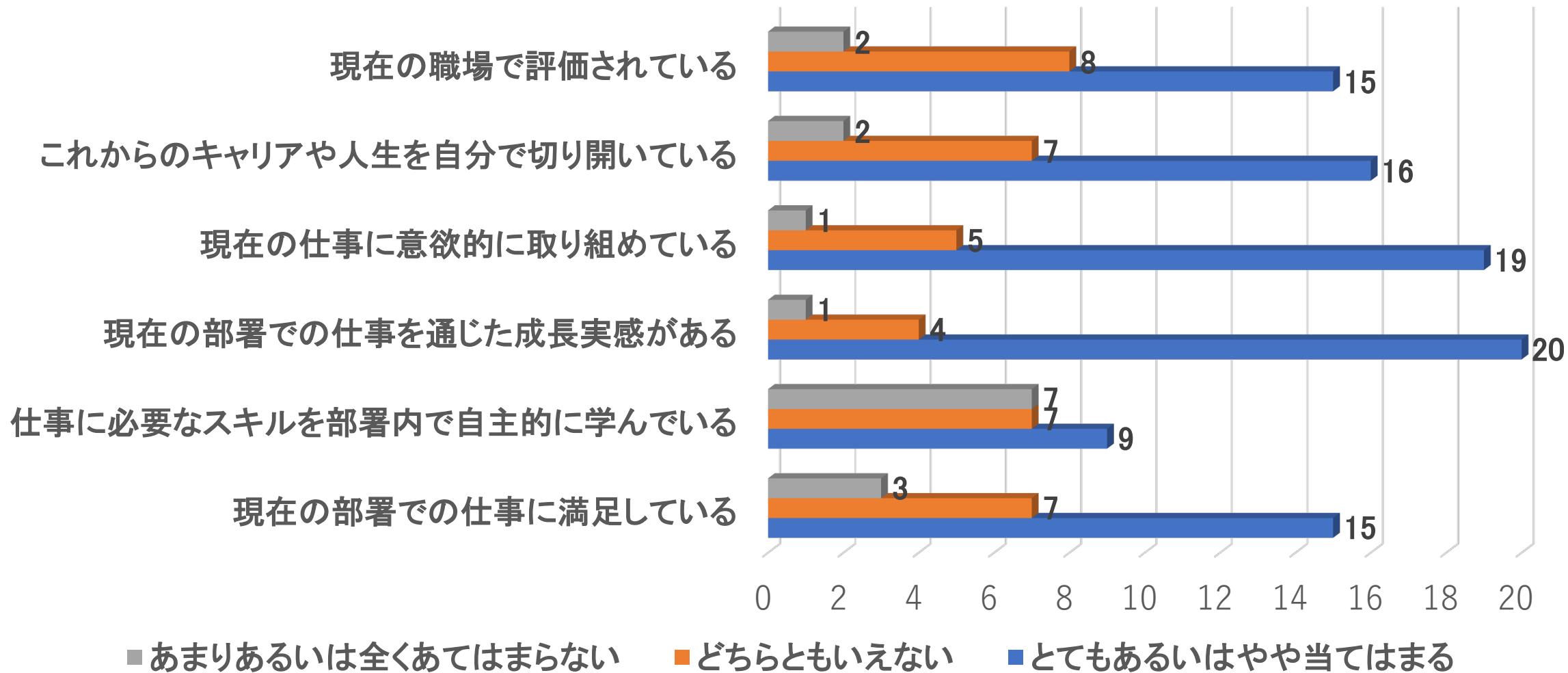
就業の有無



雇用形態



仕事の満足度とキャリア意識



【卒業生から本学へのメッセージ】

- ・質のいい看護を提供できるようにたくさん学べたらいいのかなと思う
- ・図書館などの外部解放とても助かっています
- ・看護学部だけでなく他の医療学部があると多職種連携などを意識した学びもでき、学生のうちから体験できるので素敵だなと思いました
- ・学生が看護について十分に考える力を育めるような環境をこれからもつくっていって欲しい

【卒業生から在校生へのメッセージ】

- ・就職してから学ぶことのほうが圧倒的に多い。
- ・学生時代の基礎知識は何気に大切だからしっかり勉強しといったほうがいいです。私は後悔しました。
- ・学生の時にしか経験できないことがたくさんあるので、いろいろと経験して学んで行けたらいいと思います。
- ・夢に向かって頑張ってください
- ・就職後、病態生理はどの診療科でも必要なので理解しながら学び知識を深めて行くをお勧めします
- ・勉強頑張って看護師なってください。
- ・どんな細かなことでも不安に感じた際は自分の話しやすい先生に相談し、1人で悩まず頑張って下さい。
- ・看護という仕事についてその大変さと充実感を日々感じています
- ・看護師の数が減っている中、看護という仕事を目指して日々頑張っている学生さんにご自身の身体を第一に学習に励んで欲しいです。
- ・看護師として働くイメージを何となくいいのをしておいて下さい。就職してから大変なことがあっても、イメージしておけば何となく乗り切れます
- ・息抜きしつつ勉強・実習頑張ってください。

分析

実践能力の必要度(教育目標1～28)についてはどれくらい発揮できているか回答を得た。その結果、ほとんどの教育目標において96%～80%の者が、「発揮できていると思う」と回答していた。その中で「発揮していると思う」と回答した項目で少ないので、「文化的背景の異なる対象者への看護を実践できる」が68%、「地域における特性と健康課題を探求できる」が64%、「文化背景の異なる人とコミュニケーションをはかける」が60%、「国際的な視野をもって健康課題を捉えられる」が56%であった。

学生時代の取り組みとして、講義・演習・実習・ゼミナールにおいてほぼ全員が取り組んだと思っていた。また、学生時代にとても熱心に取り組んだのは『アルバイト』で76%と多かった。また、経験なしと回答したのは『自治会活動』で64%と多く、『部・サークル活動』も40%と多かった。

大学時代に成長実感を感じていた者が64%、教員への親近感を感じていた者が72%、大学時代に将来のキャリアについて相談していた者が64%であった。

研究ゼミナールでは、「困難なことを最後までやり遂げる経験」、「教養的知識の必要性を知る経験」、「自分の主張を分かりやすく伝える方法を学ぶ経験」で、意義があると76%が回答していた。看護学臨地実習については意義があると回答した者が多く、特に成人看護学 I (急性期看護学)と成人看護学 I (慢性期看護学)において、とても意義があると回答した者が72%と多かった。

本学の印象(イメージ)では、「就職支援が充実している」が10名と最も多い。次に多かったのは「学修設備や環境が充実している」、「社会で役立つ力が身につく」などでであった(7名が回答)。

大学に対する満足度については、満足していると回答した者が20名であった。その理由として、「学習面でのサポートをよく行ってくれた」、「地方から出てきて不安なことが多くあったが先生や事務の方々が心身に寄り添ってくれた」などであった。どちらともいえないと回答した4名は、「学生住宅の家賃が高い割に部屋が狭い」、「クラブ活動がほぼない」、「サークル活動があまり充実していない」などを理由にしていた。クラブ活動やサークル活動についてはコロナ禍の影響があったことが考えられる。

大学の推奨度については、推奨したいと回答した者は17名で、その理由は「先生に相談しやすい環境であったため」、「充実した支援を受けながら学習や実習に取り組めるところ」などでであった。

仕事の満足度とキャリア意識について回答を得た。その結果、「現在の職場での仕事を通じた成長実感がある」と思っている者が80%、「現在の仕事に意欲的に取り組むことができる」と思っている者が80%であった。「仕事に必要なスキルを部署外で自主的に学んでいる」と思っている者が40%と少ない傾向にあつた。

2023年度卒業生の皆様、調査にご協力していただき、心から感謝しております。今回の結果をより良い大学作りに向けて検討していく材料とし、教育活動や学生支援に役立てていきたいとと思います。今後の皆様の活躍を心から祈っております。なお、時々大学の方に足をお運びください。成長した皆様方にお会いすることを教職員一同楽しみにしております。

2024年9月

学長戦略室「評価部門」